

りぬ。公家も武家も一同に眞言師を召て師匠とあをぎ、官をなし寺をあづけたぶ。佛事の本畫の開眼供養は八宗一同に大日佛眼の印眞言なり。疑云、法華經を眞言に勝と申人は此釋をばいかんがせん。用べきか、又すつべきか。答、佛の未來を定云、依法不依人。龍樹菩薩云、依修多羅白論。不依修多羅黑論。天台云、復與修多羅合者錄而用之。無文無義不可信受。傳教大師云、依憑佛說莫信。口傳等云云。此等の經・論・釋のごときんば夢を本にはすべからず。ただついさして法華經と大日經との勝劣を分明に説たらん經論の文こそたいせち候はめ。但印眞言なくば本畫の像の開眼の事此又をこの事なり。眞言のなかりし已前には本畫の開眼はなかりしか。天竺・漢土・日本には眞言宗已前の本畫の像は或は行、或は説法し、或は御物語あり。印眞言をもて佛を供養せしよりこのかた利生もかたぐ失たるなり。此は常の論談の義なり。此一事にをいては、但し日蓮は分明の證據を餘所に引べからず。慈覺大師の御釋を仰で信て候なり。問云、何にと信ぜらるるや。答云、此夢の根源は眞言は法華經に勝と造定ての御ゆめなり。此夢吉夢ならば慈覺大師の合せさせ給がごとく眞言勝るべし。但日輪を射とゆめにみたるは吉夢なりといふべきか。内典五千七千餘卷

①たぶ=給ふ ②第80紙19行 ③をこの事=非義 ④る十(る) ⑤